

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	UC-ECO 18KG/BIB
製品コード	4329
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1 - 1
担当部門	技術開発部
担当者	杉浦利彦
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	自動車ボディ、ガラス、タイヤ、マットの洗浄
作成日	2014年8月7日
改正日	2016年6月7日
整理番号	4329-01

2. 危険有害性の要約

GHS分類

皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
発がん性	区分 2
生殖毒性	区分 2
特定標的臓器毒性（単回暴露）	区分 2
特定標的臓器毒性（反復暴露）	区分 2
水生環境有害性（急性）	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

警告

危険有害性情報

皮膚刺激
 強い眼刺激
 発がんのおそれの疑い
 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
 肝臓の障害のおそれ
 長期にわたる、または反復暴露による気道の障害のおそれ
 水生生物に有害

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム	9.0	25155-30-0	(3)-1949
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	非公開	非公開	非公開
ジエタノールアミン (ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミドに含有)	0.15	111-42-2	(2)-302
非イオン界面活性剤	非公開	非公開	非公開

PRTR法報告物質

PRTRに該当する。

制令番号	物質名	含有量
1種30	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(アルキル基の炭素数が10から14までのもの及びその混合物に限る。)	9.0%

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量	備考
219	ジエタノールアミン	0.15%	ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミドに含有

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・衣服等に付着した場合は、脱いで皮膚の付着した部分を十分に洗い流す。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11. 08

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・ 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ 製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・ すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・ 取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・ 取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・ 製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・ 容器を密栓すること。
- ・ 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・ 施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

- ・ 特になし

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・ 屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム	—	—
ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド	—	—
ジエタノールアミン（ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミドに含有）	—	—
非イオン界面活性剤	—	—

保護具

呼吸器の保護具

- ・ 保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・ 保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・ 保護眼鏡（普通眼鏡型）、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・ 保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 緑色透明液体
臭い	: 原料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 7.0
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: なし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.02

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度 (粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・ 通常の手扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・ 特になし

避けるべき条件

- ・ 特になし

混触危険性物質

- ・ 特になし

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

11. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム

《急性毒性》

経口：ラットを用いた経口投与試験のLD50 438 mg/kg (RTECS (2006))、500 mg/kg、2,000 mg/kg (IUCLID (2000)) に基づき、計算式を適用して得られた 438 mg/kg から、区分4とした。

経皮：データなし

吸入(ガス)：GHSの定義による固体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気)：データなし

吸入(粉じん、ミスト) データなし

《皮膚腐食性/刺激性》

RTECS (2006)のウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果の記述に、「中等度(moderate)の刺激がみられた」、及びIUCLID (2000)のウサギを用いたOECD TG 404に準拠した皮膚刺激性試験の結果の記述に「刺激性を示した」とあることから、4時間適用試験結果ではないが中等度の刺激性を有するものと判断し、区分2とした。

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

《眼損傷性/刺激性》

RTECS (2006) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に、「250 μ g 24時間の適用で重度(severe)の刺激がみられた」「1%溶液の適用で重度(severe)の刺激がみられた」、及びIUCLID (2000) のウサギを用いた OECD TG 405に準拠した眼刺激性試験の結果の記述に「刺激性を示した」とあることから、強い刺激性を有すると判断し、区分2Aとした。

《呼吸器感作性》:

《皮膚感作性》:モルモットを用いたマキシマイゼーション法で陽性の結果が1例ある。しかし、OECD SIDS に記載されている同じマキシマイゼーション法での陰性結果2例、ビューラー法での陰性結果1例、及び、管理された、もしくは大規模なヒト繰返しパッチ試験での陰性結果2例に基づき、ヒトに対しては陰性と判断する。よって、《皮膚感作性》「区分1」から「区分外」に修正する。

《生殖細胞変異原性》

本物質自身の明確なデータがなく、データ不足により分類できない。

なお、NTP DB (Access on June, 2006)、CERI・NITE有害性評価書 No.5 (2005)、EHC 169 (1996) に記述されている直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS)及びその塩 [アルキル基の炭素数が10 から14 までのもの及びその混合物に限る]に関するデータでは、経世代変異原性試験(優性致死試験)で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(小核試験、染色体異常試験)で陰性、Ames試験陰性とされている。

《発がん性》

既存分類がなく、本物質自身の明確なデータもないため、専門家判断に従い、分類できないとした。

なお、CERI・NITE有害性評価書 No.5 (2005) には、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS)及びその塩 [アルキル基の炭素数が10 から14 までのもの及びその混合物に限る]の《発がん性》試験データが記述されている。

《生殖毒性》

本物質自身の明確なデータがなく、データ不足により分類できない。

なお、CERI・NITE有害性評価書 No.5 (2005)、EHC 169 (1996) に記述されている直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS)及びその塩 [アルキル基の炭素数が10 から14 までのもの及びその混合物に限る]に関するデータによれば、経口経路では親動物および次世代に影響はみられていないが、経皮経路で、親動物に一般毒性影響のみられる用量で、受胎率の低下や次世代に奇形がみられている。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ICSC (J) (1997)に「気道を刺激する」との記載があることから、気道刺激性を有すると判断した。

以上より、分類は区分3(気道刺激性)とした。

【注記】

なお、本物質としての情報はないが、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩[アルキル基の炭素数が10 から14 までのもの及びその混合物に限る]の情報では「症状として、錯乱、嘔吐、咽頭および口腔内疼痛、血圧低下の傾向が認められた。」(NITE初期リスク評価書 No.5 (2005))という報告がある。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

データは全てアルキル基の鎖長が10-14のものの混合物であることから、分類できない。

《吸引性呼吸器有害性》

データなし

・ ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド

《急性毒性》

経口: SDSより判定(情報なし)

経皮: SDSより判定(情報なし)

吸入(ガス): SDSより判定(情報なし)

吸入(蒸気)SDSより判定(情報なし)

吸入(粉じん・ミスト): SDSより判定(情報なし)

《皮膚腐食性/刺激性》

皮膚刺激、ウサギ、5%、弱い刺激 (1) 区分外とした

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

SDSより判定(情報なし)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性: SDSより判定(情報なし)

皮膚感作性SDSより判定(情報なし)

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

《発がん性》

ヤシ脂肪酸ジエタノールアミドおよびジエタノールアミンがIARCでグループ2Bに分類されている(IARC(2011))ことに基づき、区分2とした。なお、ジエタノールアミンはラットを用いた103週間経皮投与試験で発がん性の証拠は見出されなかったが、マウスを用いた103週間経皮投与試験では、雌雄で肝細胞腫瘍の発生率の増加、雄で尿細管腫瘍の発生率の増加が認められ、マウスでは明らかな発がん性の証拠が得られたと結論されている(NTP TR 478(1999))。

《生殖細胞変異原性》

SDSより判定(情報なし)

《生殖毒性》

ジエタノールアミンに関するラットの妊娠6～19日に経口投与による発生毒性試験において、125または200 mg/kg以上の用量で、体重増加抑制、摂餌量の低下、腎臓重量の増加など母動物の一般毒性が見られた用量で、生殖に対する影響として、着床後死亡率の増加および出生後早期死亡の増加が報告されている(NTP TER 96001 (1999))ことから、区分2とした。

《特定標的臓器毒性(単回暴露)》

ジエタノールアミンに関するラットに経口投与により、200～1600 mg/kgで肝臓実質細胞に軽微な障害が現れ、1600 mg/kgでは肝細胞に大脂肪滴と限局性細胞質変性、400 mg/kg以上で腎臓の尿細管細胞壊死、さらに800

mg/kgで血清中の尿素、SGOT、およびLDHの増加が認められた(SIDS(2008))。以上より、肝臓に対してはガイダンス値の区分1、腎臓に対しては区分2に相当する用量で影響が報告されていることから、区分1(肝臓)、区分2

(腎臓)とした。また、ラットに1476 ppm(6.35 mg/L)を105分間吸入ばく露(4時間換算値:2.778 mg/L)により、死亡例では、嗜眠、協調不能、ラ音と喘ぎを特徴とした不規則緩徐呼吸が現れ、特徴的所見として、心拍数の低下に次ぐ増加、著しい呼吸窮迫、収縮期血圧増加がみられ、主な病理組織学的所見は肺水腫であった(SIDS(2008))との記載により、ばく露濃度はガイダンス値区分2に相当することから区分2(呼吸器系)とした。なお、ACGIH(2001)に、ラットに200 mg/kg以上の経口投与で中枢神経抑制(麻酔作用、鎮静作用)の記載があるが、ACGIH(2009)では採用されておらず、詳細も不明であるため分類の根拠としなかった。(2)

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ジエタノールアミンに関するラットに3か月間吸入ばく露(ミスト)した試験において、0.015 mg/L/6h以上の用量で喉頭の扁平上皮化生、0.15 mg/L/6h以上では咽頭、気道に重度の炎症が見られ(SIDS(2008))、用量は区分1ガイダンス値内であるため区分1(気道)とした。また、ラットに42～550mg/kg/dayを49日間飲水投与した試験において、155mg/kg/day(90日換算値:84.3 mg/kg/day)以上の用量で正球形貧血、尿細管上皮細胞の破壊、硝子円柱を伴った遠位尿細管の拡張と様々な早期壊死性変化、肝細胞の混濁腫脹と塩基性の消失を特徴とする早期の変性変化が見られSIDS

(2008)、ラットに25～436 mg/kg/dayを3か月間飲水投与した試験では、用量依存的な小球性貧血の発生、腎症、尿細管壊死および鉍質化の発生率または程度の増強が認められた(SIDS(2008))との報告に基づき、影響用量はガイダンス値区分2に相当していることから区分2(血液、腎臓、肝臓)とした。なお、ラットの飲水による13週間反復投与試験において、1250 ppm(124mg/kg/day)以上の用量の全ての動物で脳と脊髄の脱髄が認められており

(NTP TOX 20(1992))、神経系への影響が示唆されるが、区分2のガイダンス値を超えた用量であるため分類の根拠としなかった。

《吸引性呼吸器有害性》

SDSより判定(情報なし)

12. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム

《水生環境有害性》(急性)

甲殻類(オオミジンコ)の48時間LC50=3.5mg/L(EHC169, 1996)他から、区分2とした。

《水性環境有害性》(慢性)

急速分解性があり(p-n-ドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウムのBODによる分解度:73%(既存化学物質安全性点検データ)から類推)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.96(PHYSROP Database, 2005))ことから、区分外とした。

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

- ・ ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド
 - 《水生環境有害性》(急性)
生分解率: ≥99%
 - 《水性環境有害性》(慢性)
SDSより判定(情報なし)

オゾン層への有害性 : データなし

13. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制 :

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

容器等級 : 該当しない

海洋汚染物質 : 非該当

国内規制 :

容器イエローラベル

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法 :

対象外

高圧ガス保安法 :

対象外

消防法 : () 内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法) :

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法 :

通知対象物質を含有する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則) :

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物) :

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法) :

PRTRに該当する。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

整理番号	UC-ECO 18KG/BIB	作成日	2014年8月7日
4329-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年6月7日

Ver. 11.08

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。